

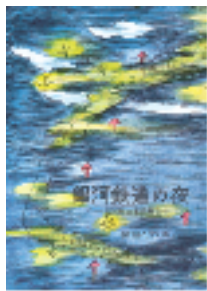
銀河鉄道の夜

【宮沢賢治童話集 II】

宮沢賢治 作 春日部たすく 画 岩波書店

ジョバンニのお父さんは漁師で、ずっと家にいません。お母さんは病気で、あまり丈夫ではありません。ケンタウル祭の夜、お父さんのことでザネリたちからかわれたジョバンニは、天気輪の柱の下で空を見上げていました。そんなジョバンニに、不思議なことが起こります。ふと気がつくと、銀河鉄道に乗っていたのです。数多くの作品を残した宮沢賢治の童話集です。

ミヤザワ



銀のほのおの国

神沢利子 作 堀内誠一 画 福音館書店

人間は、なぜ他の生き物の生命をうばわなければならないのでしょうか。たかしとゆうこは、部屋に飾られているトナカイの首に呪文をかけるまねをしてみました。すると、トナカイが動きだし、壁の中へとふたりをひきずりこんだのです。「銀のほのおの国」をめざし、荒野を駆けぬけるトナカイを追って、たかしとゆうこは旅立ちました。そこでは動物たちが人間と同じように話し、仲よくなり、争ったりしていました。そしてふたりは、銀のほのおの国の再生にくだみです。

カンザワ



ちょっとひとやすみ⑥

ファンタジーとは、現実からかけ離れた空想や幻想のことをいいます。大きくになるにつれ、学校や社会など、日々の生活が忙しくなり、空想の世界で遊ぶことが少なくなってきました。でも小さいころ、「魔法が使えたら。」「動物と話すことができれば。」「思い描き、胸をはずませたこともあったのではないのでしょうか。忘れてしまった空想の世界を、本を読むことで取り戻すことができます。ファンタジーの扉を開ければ、あなたの心に幼かったころのドキドキやワクワクがよみがえることでしょ。



クマのプーさん プー横丁にたった家

A.A.ミルン 作 石井桃子 訳 岩波書店

クマのプーやコプタ、ロバのイーヨー、うさぎ、カンガルー親子のカンガにルー、そして人間のクリストファー・ロビン。みんな森で仲よく楽しく暮らしています。歌をつくることが好きなプーは、食いしん坊ではちみつが大好物。いつだって考えているのは食べ物のことばかり。そのせいで失敗してしまい、いつもクリストファー・ロビンたちに助けられています。でも、プーだってみんなの役に立つときがあるんですよ。

ミルン

ゴーストハウス

クリフ・マクニッシュ 著 金原瑞人・松山美保 訳 理論社

古い家の中に、子どもの幽霊が4人いました。4人はもう長い間、この家に閉じこめられています。そして、何かを恐れているのです。そんな家に、男の子と母親が引っ越してきました。男の子の名前はジャック。ジャックは、死者の記憶を読み取るという不思議な能力をもっていました。間もなくジャックは、女の幽霊と出会います。ジャックと幽霊たちの、息をのむ物語が始まりました。

マクニッシュ



ジャングル・ブック

R・キップリング 作 木島始 訳 石川勇 画 福音館書店

モーグリは、インドのジャングルでおおかみにひろわれました。ジャングルのおきてでは、人間を食べることが禁止されています。力と知恵とでなかまをひきいてきたアケラは、父おおかみが人間の子どもを育てることをみとめました。モーグリは、くまのバルーや黒ひょうのバギーラから教育を受け、ジャングルでの生きかたを学び、平和に暮らしていました。しかし、アケラの力が弱まると、おおかみたちはモーグリをジャングルから追い出そうとします。

キップリング

たのしい川べ

—ヒキガエルの冒険—

ケネス・グレーアム 作 石井桃子 訳 岩波書店

あたたかい春が来ました。もぐらは、外へ遊びにいきます。川岸に着くと、ボートで遊んでいる川ネズミと出あいました。ふたりはすぐに仲よくなります。ネズミはとても物知りで、友達がいました。ネズミには、大金持ちのヒキガエルという友だちもいます。ところがこのヒキガエルは大変やっかいな性格で、思ったことをすぐに実行しないと気がすまないのです。そんなヒキガエルに巻きこまれたふたりは……。ハラハラさせられる物語です。

クレアム

